

アド・リサイクル・ウッドデッキ™プラスの施工について

施工をはじめる前に

※必ずお守りください

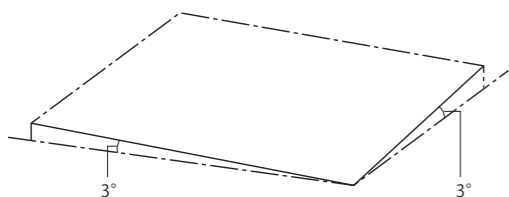
アド・リサイクル・ウッドデッキシリーズは、全て木粉、プラスチック成分が含まれている為、吸水や温度・湿度変化により伸縮や反りが発生します。施工、ご使用においてはこの点を留意の上、現場納品、保管、施工をして頂くをお願いします。

① [デッキ材の貼り方について]

- ウマ貼りを標準としてください。イモ貼りをすると、反りや伸縮した際に目立ち、また、つまずく危険性などもあります。



- 下図の通り、水勾配をとってください。(水はけが悪いと材料が腐る原因になります。)

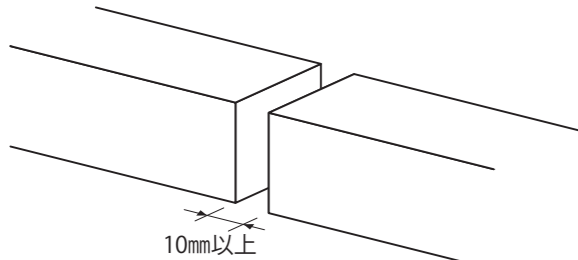


② [納品から施工までの保管方法]

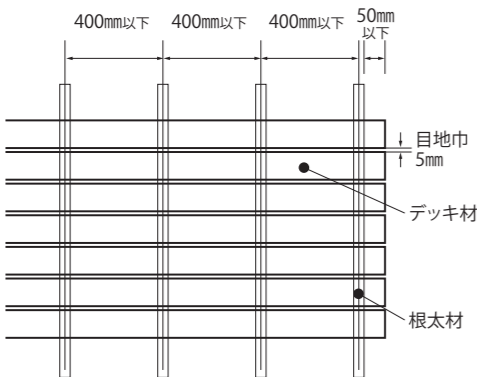
- 施工開始の3～4日前までに現場へ納品し、現場の温度、湿度になじませてください。
- 壁面に立てかけての保管は反りや曲がりの原因になりますので絶対に避けてください。
- 水に濡れないように保管してください。

③ [根太について]

- 専用根太を使用してください。
- 根太が伸びて浮き上がらないように、デッキ材と根太は専用部材でしっかりと固定してください。
- 根太材同士の接合部は10mm以上の隙間をあけてください。



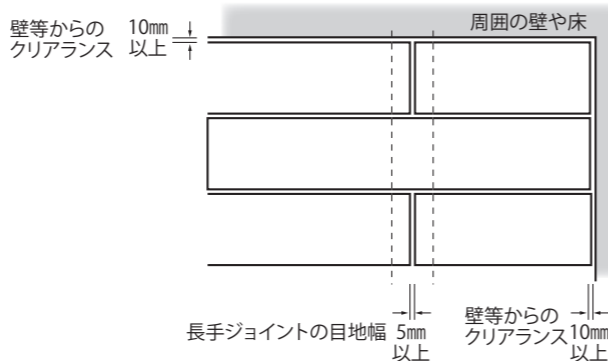
- 根太間隔は芯芯400mm以下としてください。



- デッキ材の片もち距離は、根太端から50mm以下としてください。

④ [デッキ材の間隔]

- デッキ材の短手方向ジョイントの目地幅は5mm以上、周囲の壁や床端部からのクリアランスは10mm以上を確保してください。
- デッキ材にはプラスチック成分が含まれているため、温度差で伸び縮みが発生します。冬場施工時には、十分に目地を設定してください。夏場の温度湿度上昇、吸水によって伸びが発生し、デッキ材が突き付けになって破損が発生する場合がありますのでご注意ください。
- 施工する3日前に納品して、現場の気温になじませてください。



⑤ [束、または大引について]

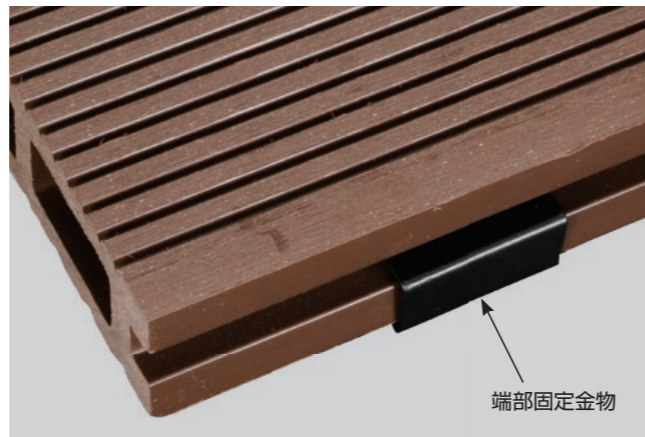
- 束は、アドヴァンのマルチフットをご使用ください。
- 大引を利用する場合は、当デッキの重量や伸縮等に適した材料を選定し、安全にご使用できるように施工してください。
- 束、大引いずれの場合も間隔は芯芯400mm以下としてください。
- マルチフットを使用する場合は、必ず根太をマルチフットで固定してください。しっかり固定しないとデッキ材の反りにより、マルチフットが転倒したり、強風で飛ばされる危険性があります。

⑥ [デッキ材のカットについて]

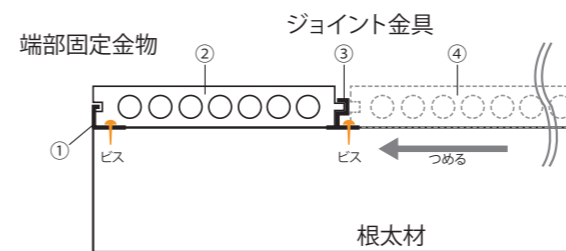
- デッキ材カット用のノコギリ刃は、プラスチック(塩ビパイプ)カット用の刃を推奨します。デッキ材には、プラスチック成分が含まれているためです。
- カットの際、デッキ材の小口にバリが付いた場合は、紙やすり(#60程度)で削り落としてください。
- 長手方向をカットすると横ゾリする性質があります。細い切り物が入らないよう、割付に注意してください。

[デッキ材の施工手順]

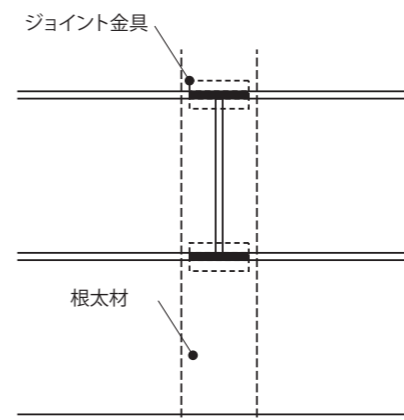
- ① 端部固定金物を根太に専用ビスで固定する。



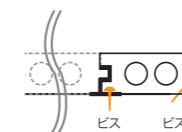
- ② 1列目のデッキ材を設置する。
- ③ オスにジョイント金具をはめこみ、専用ビスで根太に固定する。
※見えている側(まだ設置していないデッキ側)の穴に、専用のビス2本を差し込んで固定してください。
- ④ 1列目のオスに2列目のメスをはめこみ、③～④を繰り返す。



(注意) ジョイント金具は、デッキの短手接続部分には設置しないでください。



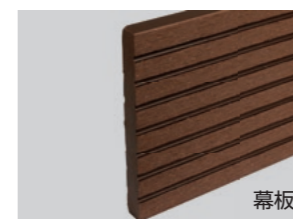
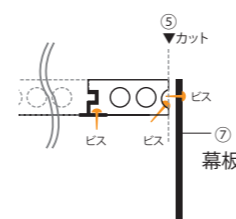
- ⑤ 最終列の納まりに調整が必要な場合、ウッドデッキをカットする。カットした面から斜めにビスでウッドデッキを根太に固定する。



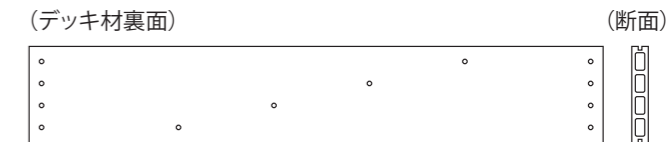
- ⑥ 中空構造タイプの端部小口には、専用のエンドキャップを取り付ける。



- ⑦ 幕板は必要に応じて取り付ける。専用ビスで300mmピッチで固定する。



- ⑧ 水勾配で一番低い箇所に施工されるデッキ材の裏面には、雨水を抜くために必ず下記の通り穴をあける。穴はφ5mmとする。



[使用上の注意]

- 素足歩行も可能ですが、夏場は直射日光により表面温度が急激に高くなり、火傷する可能性がありますので十分ご注意ください。
- 製品に強い衝撃を与えないでください。破損する場合があります。
- 製品の上で焚き火や花火等をしないでください。火災の恐れがあり、たいへん危険です。
- 表面に揮発性の有機溶剤(ガソリンや灯油等)をこぼさないようにしてください。変色や変形の原因となります。こぼした場合はすぐに拭き取ってください。
- 原材料にプラスチックが配合されているため、摩擦により特に冬場に微弱な静電気が発生することがあります。
- 紫外線による退色は天然木ほどの変化はありませんが、経年変化による多少の退色が見られる場合があります。

[日常のお手入れ方法]

- 日常の清掃はホウキ掛けで行ってください。定期的な清掃をお勧めします。
- 汚れが目立つ場所は、水で希釈した中性洗剤を使用し、デッキブラシ掛けを行ってください。洗剤が残らないように十分な水で洗い流して乾燥させてください。
- 汚れ落としにシンナー、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。変色等の原因になります。
- タバコの焦げ跡等や小さな擦り傷跡等はサンドペーパーまたは金ブラシ掛けしてください。サンディング跡は残りますが、焦げ跡等は目立たなくなります。
- 付着したチューイングガム等はヘラ等を使用して除去してください。
- 排水ドレイン等は定期的に清掃してください。清掃を怠ると床下が長期的に湿潤状態となり、デッキ材に大きな反り、ねじれ、伸びを生じさせる場合があります。
- デッキ材の目透かし目地部分に詰まったゴミ、砂、木の葉等は床下の通気を妨げるため、定期的に除去してください。

[リサイクルデッキプラス 水はけについて]

- リサイクルデッキプラスは目地がないため、通常のデッキに比べると水はけがしにくいです。
- 施工の際には1～2%の傾斜を付けてください。

